

## 令和5年度 学力スタンダード指導計画・報告書

教科：(公民)科目：(政治経済) 対象：(第3学年 1組～8組)

教科・科目の 指導目標	社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決に向けて構想したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成する。
----------------	---

	前年度の学力調査分析結果	分析結果を踏まえて検討した指導内容	指導体制の確立
年度当初	例年と比べて全体の正答率・平均点は高い。地理、歴史、公民の各分野に関する基礎知識は一定備えており、簡単な資料読解もできる。ただし、それぞれの知識を有機的に結び付けて解答させる問題や、複数の資料を関連づけて総合的に考察した上で論述させる問題の正答率はやや低くなっている。設問が要求していること自体の読解力を含め個々の知識を活用して問題に柔軟に対応する能力は、まだ不十分な生徒も少なくない。また、オンラインの学習環境が整備され、生徒も馴染んできた面がうかがえる。	まず、現代の国内、国際社会ともに、政治・経済に関する多様な問題の所在を正確に把握させることが第一である。次にそうした問題の解決に向けた取り組み(選挙、政策・立法の工夫、協力体制や信頼関係の構築など)を経て、どのような変化(成果)が生じているかといった面まで学びを継続させたい。その際に、教科書だけでなく資料集、新聞やインターネットなどから収集した記事・データも活用した資料活用能力と表現力を高め、一つの問題について、多様な見方・考え方、評価と解決策が存在することに気づかせる。また、授業ではアクティブ・ラーニング的手法を取り入れ、生徒の思考力・表現力の幅を広げさせたい。	定期考査では、教科書に記述のある内容だけではなく、同時進行で現実生じている時事問題の中から政治・経済に関するテーマを取り上げ、日常的に時事問題に対する興味・関心を涵養する。さらに、定期考査以外にレポートやグループワークなどの課題を課し、信頼できるさまざまな資料を活用して現代社会の諸課題を多面的に把握・考察し、問題の解決に向けた展望を自分なりにまとめられるような表現力と情報発信能力を育む指導体制を確立していきたい。